



## シリーズ がん予防トピックス 11



## 近づいてきたオーダーメイドがん予防

田中 英夫 先生

愛知県がんセンター研究所  
疫学・予防部 部長

がんのできる原因は、ライフスタイルや環境から受ける影響と、生まれながらに備わっている遺伝的な体質から来るものの、大きく2つに分かれます。この2つが組み合わさって、1人1人の体の中にがんができる「できやすさ」が、それぞれ違ってきます。

どのようなライフスタイルや環境が原因で、どのような部位のがんがどれくらいできやすく（できにくく）なるのかについての疫学研究は、これまで日本国内で盛んに行われ、その結果は国立がん研究センター研究所のホームページで見ることができます。一方、遺伝的な体質の研究で、特に多因子遺伝という、小さなリスクを持ついくつかの遺伝子多型（SNP）が組み合わさって、がんの罹りやすさを体質として生み出す様子の研究は、2000年以後、急速に進みました。

私達の愛知県がんセンター研究所では、がんセンター中央病院の協力の下、初診外来患者さんを対象として、このようながんの原因を探し出す研究を行っています。最近、そのうち約2,000人を対象に研究し、乳がん発症に「関係ある」14のSNPを見出しました。そして、その14のSNPを何個持っているかによって対象者を図に示すように5つのグループに分類したところ、「関係ある」SNPを多く持っていたグループの人ほど、乳がん発症のリスクが高くなることを発見しました。

このような遺伝的な体質の情報に、これまでに明

らかにった生殖歴や、肥満、運動習慣、アルコール摂取量などのライフスタイルや環境要因を1人1人について把握したうえで、その人の乳がんへの罹りやすさを予測する方法が、生まれようとしています。1人1人の個性を反映したオーダーメイドがん予測が可能になりますと、その人に適したよりの確ながん検診受診間隔の設定や、ライフスタイルの変容といった、オーダーメイドがん予防につなげられる可能性が広がるものと期待されます。

